

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | アーティスト・デザイナー杉田禾堂の仕事 : 大阪府工業奨励館製作試作品を中心に                                     |
| Author(s)    | 宮島, 久雄  |
| Citation     | デザイン理論. 2013, 61, p. 126-127  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/53411">https://doi.org/10.18910/53411</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## アーティスト・デザイナー杉田禾堂の仕事 — 大阪府工業奨励館製作試作品を中心に — 宮島久雄／高松市美術館

昭和7年、杉田禾堂は、大阪府の産業工芸振興のために設置された大阪府工業奨励館工芸産業奨励部長として大阪に赴任した。奨励部の事業の一つに輸出向工芸の試作というのがあるが、昭和10年作の27件が、現在、京都工芸繊維大学美術工芸資料館に所蔵されていることがわかった。その品種は文具、小箱、喫煙用具、食卓用具、調理用具、化粧用具の6種である。それらは美術工芸資料館が昭和11年3月12日に購入したこと、『大阪之工芸』掲載の昭和10年11月の工芸産業奨励部事業には17種、185点の試作品の品名が掲載されており、さらに品名の多くは昭和10年9月開催の近畿聯合輸出向工芸試作品展と11月開催の商工省輸出向工芸品展の目録にも重複しているの、資料館所蔵品もそれらに含まれていることは間違いない。ただ、奨励部事業の目録には、例えば「灰皿六個」と複数になっており、デザインを異にしたものがあつたようであるし、事実、所蔵品にも写真立や灰皿のように複数あるものもあるの、現所

蔵品がすべて上記展覧会に出品されたものとは断定できない。

「試作品」というのはちょうど二十世紀初めに工芸製作の過程から、重要性が認識され、独立した「図案」の次の段階に相当する仕事であった。図案を制作する人は図案家といわれたが、試作品製作者の呼称はなく、戦後誕生したデザイナーの仕事から考えると、アーティスト・デザイナーと呼ぶのが相応しいといえる。大阪府工芸産業奨励部における杉田禾堂の仕事はまさにこの適例である。

現所蔵品は同部職員が金工と塗装工だったことから、両工芸の関係品が多く、デザインの観点からいうと、アール・デコ式、新興工芸・構成派式、伝統の応用、そしてごく一般的な欧米日常品に倣ったものの四種に分けられる。いずれにせよ、これらの作品は日本近代デザインの初期資料として非常に貴重な作例であることは間違いない。

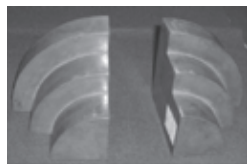
アール・デコ式



1



2



3



4

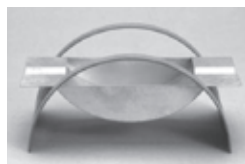
構成派、新興工芸式



5



6



7



8

一般商品式



9



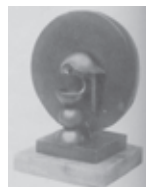
10 11



杉田禾堂の美術工芸作品



1



2



3

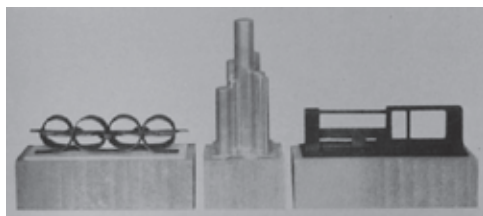
伝統の応用 (金工)



12



13

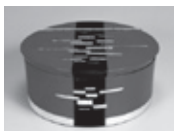


4

伝統の応用 (漆工)



14



15



16



5

6

9

10

伝統の応用 (木工)



17



7



8

【アール・デコ式】 1 インクスタンド AN2569, 2と3 ブックエンド AN2592, 3は置き方を変えたもの, 4 卓上ベル AN2593, 【構成派, 新興工芸式】 5 花盛器 AN2590-2, 6 コップホルダー AN2585-B, 7 灰皿 AN2571-4, 8 写真立 AN258-11, 【一般商品式】 9 吸取器 AN2574, 10 灰皿 AN2596-1, 11 灰皿 AN2596-2, 【伝統の応用 (金工)】 12 写真立 AN2581-2, 13 燭台付き灰落し AN2591, 【伝統の応用 (漆工)】 14 亀甲形小筥 AN2570, 15 カラー箱 AN2580, 16 婦人手袋箱 AN2578, 【伝統の応用 (木工)】 17 菓子入 AN2572 【写真出典】 試作品は京都工芸繊維大学美術工芸資料館, 杉田の工芸作品は各展覧会図録

【杉田禾堂の美術工芸作品】 1 柘榴銅花瓶 第5回農展 大正6/1917, 2 銅花瓶 聖徳太子奉賛美術展 大正15/1926, 3 銅四方切花瓶 第10回帝展特選 昭和4/1929, 4 用途を予期せぬ美の創造 原始期, 過渡期, 完成期 第11回帝展 昭和5/1930, 5 花器/基本品 第1回大阪府産業工芸博覧会 昭和10/1935, 6 銅鳩耳花瓶 昭和11年文展 昭和11/1936, 7 白銅盛器 第3回創工社基準工芸展 昭和14/1939, 8 黄銅灰皿 第3回創工社基準工芸展 昭和14/1939, 9 銅丸文花瓶 第4回新文展 昭和16/1941, 10 大東亜戦争之記録銅花瓶 第5回新文展 昭和17/1942